

審査の結果の要旨

氏名 六角 美瑠

六角美瑠による、『建築設計における「景」の構造と操作手法に関する研究』と題された本論文は、建築設計においてきわめて重要な外部の風景の操作手法を「空間フレーミング」として確立し、その前提として、建築分野における「景」の構造、その分析手法をあきらかにしたものであり、審査委員会は研究の適合性に関して以下のように整理する。

論文の概要：本論文は、全7章で構成され、目的、背景、セントラル・クエスチョンを第1章で述べた後、第2章で建築設計における「景」の構造を明らかにする。第3章では、370の事例の量的分析を行なうことにより開口部のプロトタイプを抽出し、第4章で12のフレーミング類型を分析した後、第5章でその組み合わせ型と操作を提示し、第6章で、5種の「空間フレーミング」を分析した。最後の7章で全体のまとめをおこなっている。

全体的意義：本論文は、住宅の設計において、作り手は、外界をどのように巧みに切り取って、内部で豊かに利用するのであろうか、という問いに対して、「窓と内部とを関連もって巧みに設計する」操作・方法を「空間フレーミング」として、示したことに大きな意義を有している。また、その際の分析の枠組みとして、人の視覚に影響を与える「効果」と外界（景観）とを結びつける「操作手法」、さらにそれに関係する建築家の「巧緻性」という分析ツールの開発とその事例に適用したことに意義がある。

研究方法に関する意義：本論文は、『新建築』、『新建築住宅特集』から抽出した370の事例をもとにそこから量的な帰納的推論によって、基礎となる分析の枠組みを設定し、さらに、質的分析により獲得したgood practice (優良事例) を深く洞察することによって、「空間フレーミング」という概念を導きだしている。これは、量的と質的な研究を同時におこなったということであり、建築意匠学の研究を進める際の独創的なひとつの方法論の提示と見なされる。

よって、本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。